
宮崎県埋蔵文化財センター一年報



2020

序

本書は、宮崎県埋蔵文化財センターの概要と令和元年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターは、昭和57年（1982年）10月、宮崎市神宮の地に宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして発足して以来、国・県・西日本高速道路株式会社等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに、出土遺物の整理、保管を行ってきました。また、明らかになった郷土に関することがらをテーマ展示や出前展示、報告会等によって県民の皆様の郷土への理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用、教育普及活動に取り組んでいるところです。

令和元年度は、都城市山之口町において県立陸上競技場建設に伴う2遺跡、延岡市において国道整備事業、えびの市において県道改良工事に伴う各1遺跡の合計4遺跡において発掘調査を行うとともに、現地調査が終了した8遺跡の資料について整理作業を実施し、このうち5遺跡について報告書を刊行しました。また、「みやざきの古墳保護・活用事業」は事業の最終年度となり、これまでに調査した県内すべての古墳についての情報や、西都市百塚原古墳群など複数の地点で実施した調査の成果をまとめて、報告書を刊行しました。

普及活動に関しては、アウトリーチ活動として平成30年度から実施してきた移動展示会「土器と石器がやってきた！埋文セレクション」や埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」、当センター事業を紹介する施設公開、これまでの発掘調査の成果紹介を行う「遺跡発掘成果展2019」などを開催し、郷土の文化遺産である埋蔵文化財を多くの方々に知っていただくための機会の提供に努めたところです。

今後、県民の皆様に郷土の歴史をより身近なものと感じていただけるよう、職員が丸となり業務に取り組んで参りますので、関係各位の御理解と御協力をお願いいたします。

令和2年6月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 山元高光

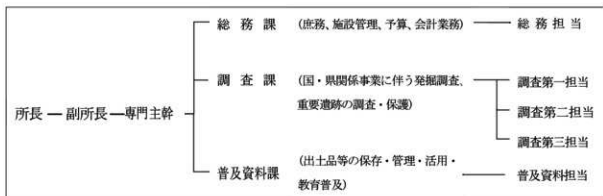
目 次

I	組織・施設	1
1	組織	1
2	施設	2
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	令和元年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財記録保存のための発掘調査	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	6
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	6
(4)	みやぎの古墳保護・活用事業（文化庁補助事業）	7
(5)	保存処理	8
(6)	収蔵整理	8
2	教育普及活動	9
(1)	移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション事業』 （文化庁補助事業）	9
(2)	埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」	10
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	10
(4)	遺跡発掘成果展2019・遺跡発掘速報会	11
(5)	分館テーマ展示	12
(6)	出前展示	12
(7)	出前講座	12
(8)	現地説明会・調査報告会など	13
(9)	見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ	14
(10)	資料等の提供	15
(11)	職員派遣	18
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	18
(13)	広報出版物	19
(14)	ホームページ	19
3	会議・職員研修	19
(1)	各種会議等への参加	19
(2)	共同研究への参加	20
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	20
4	中浦遺跡の発掘調査	21
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	25

I 組織・施設

1 組織

(令和2年4月1日現在)



所 長	山元 高光	○調査第二担当 (担当リーダー)		
副 所 長	赤崎 広志	主 幹	東 憲章	
専門主幹	向井 大蔵	主 査	竹田 享志	
専門主幹	柚木崎誠一朗	(高速度対策局・併)	橋本 英俊	
<u>総務課</u>		主 査	二宮 満夫	
課 長	鈴木 勝代	(高速度対策局・併)	伊東 浩二	
○総務担当 (担当リーダー)		主 査	石塚 啓祐	
主 幹	阿波野ゆかり	(高速度対策局・併)	主 査	古川 誠
主 査	池田 隆之	(高速度対策局・併)	主任主事	加藤真理子
主 事	荒武くるみ			
(会計年度任用職員)		○調査第三担当 (担当リーダー)		
業務支援員	黒木 朋恵	主 幹	日高 広人	
<u>調査課</u>		主 査	黒木 俊彦	
(兼) 課 長	赤崎 広志	主 査	谷口 至	
○調査第一担当 (担当リーダー)		<u>普及資料課</u>		
副 主 幹	和田 理啓	課 長	松田 清孝	
主 査	宇和田幹彦	○普及資料担当 (担当リーダー)		
主 査	平井 祥蔵	副 主 幹	田中 敏雄	
主 査	今塩屋毅行	主 査	山田洋一郎	
主 査	大竹進太郎	主 査	谷口 晴子	
主 査	江藤 建輔	(会計年度任用職員)		
(益城町派遣)		専属文化財整理専門員	貴嶋 活実	
主 査	沖野 誠			
主 査	吉行 真人			

2 施設

(1) 本館 (宮崎市佐土原町下那珂4019)

本館 2,656,50 m²

①管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室 57.76 m²

所長室 19.86 m²

情報処理室 33.17 m²

会議室 78.52 m²

休憩室 78.52 m²

調査研究室 248.55 m²

復元整理室 293.44 m²

一次処理室 96.81 m²

図面整理室 61.62 m²

写場 64.20 m²

暗室 12.65 m²

一次保管室 (2層) 188.00 m²

図書室 (2層) 193.88 m²

荷捌室 43.01 m²

その他 276.00 m²

②整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(2) 分館 (宮崎市神宮2丁目4-4)

分館 (鉄筋コンクリート造2階建て) 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室 121.20 m²

復元整理室 148.30 m²

保存処理室 49.30 m²

(鉄器 22.70 m²)

(木器 26.60 m²)

研修室 143.20 m²

事務室 41.80 m²

展示室 150.00 m²

器材庫 11.00 m²

エントランスホール他 212.78 m²

2階 774.80 m²

写場・暗室 49.30 m²

写真保管室 35.10 m²

図面保管室 53.10 m²

収蔵整理室 19.30 m²

収蔵室 564.00 m²

特別収蔵室 54.00 m²

II 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明(兼博物館副館長)以下本務職員2名(岩永哲夫、谷口武範)、兼務職員8名、嘱託2名 発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの歴から」 (講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明)
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名(茂山謙、岩永哲夫、谷口武範)に増員する。
1984	59. 4. 1	(茂山謙転出、菅付和徳転入)
1985	60. 11. 2	文化財保護施設開館の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群―遺物編」発行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」発行 センター長長友敏発令。本務職員1名(菅付和徳)、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井邦博発令。本務職員1名(永友良典)、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」発行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」発行。 センター長木橋丈夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82〜'91」を開催する。 股庫設置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名(長津宗徳)、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関根清志発令。本務職員1名(長津宗徳)、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係(調査部門)を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係(第二係兼務)を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室(旧鶴島相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25)を設置し、調査第一係(東九州自動車道担当)を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富(旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2)に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の日本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課別となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館(研修室、事務室、図面保管室、写真保管室)改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮崎守一発令。職員62名(うち任期付き職員13名)、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用二日調検定工場を農政企画課から所管替え。

西暦	年月日	事 項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員6名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東館原整理作業棟撤去に伴う貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員64名（うち任期付き職員18名）、非常勤職員8名となる。
2007	19. 6. 1	職員64名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員3名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員61名（うち任期付き職員16名）、非常勤職員2名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員59名（うち任期付き職員18名）、非常勤職員1名となる。
2010	22. 4. 1	所長森茂茂発令。職員62名（うち任期付き職員18名）、非常勤職員1名となる。
2011	23. 4. 1	職員53名（うち任期付き職員15名）、非常勤職員1名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員42名（うち任期付き職員7名）、非常勤職員1名となる。10月より東日本大震災復興支援で宮城県へ松本茂を派遣。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～12. 8	所長向井大蔵発令。職員31名、非常勤職員1名となる。引き続き東日本大震災復興支援で、宮城県へ和田理啓を派遣。 特別展『みやぎ発掘100年-いこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩野謙志発令。職員28名、非常勤職員1名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（2年目）。
2015	27. 4. 1	東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（3年目）。本年度で派遣終了。 移動展示会「ふるさと発掘！理文キャラバン」事業でアウトリーチ活動を展開。 旧調査第一課調査研究室撤去。
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。10月より非常勤職員2名となる。
2017	29. 4. 1	所長菅付和樹発令。職員29名、非常勤職員3名となる。平成28年熊本地震復興支援で加藤徹を熊本市に派遣。
2018	30. 4. 1	所長長峯勝志発令。職員30名、非常勤職員3名となる。平成28年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣。
2019	31. 4. 1	所長山元高光発令。職員31名、非常勤職員1名となる。平成28年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣（2年目）。
2020	令2. 4. 1	職員31名、会計年度任用職員2名となる。平成28年熊本地震復興支援で沖野誠を益城町に派遣。

Ⅲ 令和元年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

令和元年度は以下に記載する事業を実施した。

1 埋蔵文化財記録保存のための発掘調査

(1) 発掘調査

国・県施設に伴う試掘・確認調査及び発掘調査を実施している。本年度は、竹下第2遺跡（延岡市）、中浦遺跡（えびの市）、花木池平遺跡、上平遺跡（都城市）など4カ所の本調査を実施した。

【発掘調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	竹下第2遺跡	延岡市 貝の畑町	古墳時代	竪穴建物跡 小穴	土師器、須恵器、 輸入青磁、石鏝、 石鏝	R1. 8. 1 ? R1. 11. 8 (実調査日数 51日)	500㎡	後藤清孝 橋本英俊	国道218号 (貝の畑工 区)歩道整備 事業
2	中浦遺跡	えびの 市大字 津字新 邑下	古代	自然水路	土師器	R1. 8. 26 ? R1. 9. 6 (実調査日数 51日)	100㎡	加藤真理子 竹田享志	主要地方道 京町小浜線 京町工区道 路改良工事
3	花木池平遺跡	都城市 山之口 町花木	古墳時代 中世	竪穴建物跡 土坑 小穴 自然水路	土師器 縄文土器	R2. 1. 14 ? R2. 3. 27 (実調査日数 42日・令和2年 度に継続)	2,400㎡	古川 誠 竹田享志 恵利武馬	県有体育 施設整備 事業(陸上 競技場)建 設工事
4	上平遺跡	都城市 山之口 町山之 口	縄文後期	竪穴建物跡	縄文土器	R2. 3. 4 ? R2. 3. 27 (実調査日数 12日・令和2 年度に継続)	6,000㎡	二宮満夫 大竹進太郎 吉行真人	県有体育 施設整備 事業(陸上 競技場)建 設工事

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

【調査指導】

日 程	場所（遺跡）	所属・氏名	指導内容
本年度は該当なし	—	—	—

【資料調査】

日 程	出張先	出張者	目 的
本年度は該当なし	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は9遺跡と1事業で、内訳は地域高規格道路が県土木事務所事業4遺跡・国土交通省事業2遺跡、砂防事業1遺跡、歩道整備事業1遺跡、主要地方道改良1遺跡、みやざきの古墳保護・活用事業が1事業3地点である。なお、本年度は整理作業の終了した5遺跡と1事業について発掘調査報告書を刊行した。

【出土遺物等整理対象遺跡一覧】

遺跡名	事業名	事業者
坪谷城跡	本村谷川4通常砂防工事	県土整備部日向土木事務所
大浦遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区 道路整備工事	県土整備部都城土木事務所
上高遺跡		
保木島遺跡		
小迫遺跡		
竹下第2遺跡	国道218号（貝の畑工区）歩道整備事業	県土整備部延岡土木事務所
中浦遺跡	主要地方道京町小林線京町工区道路改良工事	県土整備部小林土木事務所
松下遺跡	国道10号都城道路工事	国土交通省九州地方整備局
小松尾遺跡		宮崎河川国道事務所
塚原古墳・百塚原古墳群 広瀬村古墳	みやざきの古墳保護・活用事業	県教育委員会

【発掘調査報告書刊行一覧】

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
250	小松尾遺跡	一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6	竹田享志
251	坪谷城跡	木村谷川4通常砂防工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	和田理啓
252	松下遺跡	一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7	恵利武馬
253	大浦遺跡	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)金御岳工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2	高村 哲
254	上高遺跡	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)金御岳工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3	平井洋藏
255	みやぎきの古墳保護・活用事業成果報告書		日高広人 橋本英後 今嵐屋毅行

(4)みやぎきの古墳保護・活用事業(文化庁補助事業)

平成28年度まで実施していた重要古墳等保護活用事業に引き続き、県内の古墳の現状把握と今後の保存・活用を進めていくうえで必要な情報の収集を目的として、古墳の基礎的調査(悉皆調査や文献調査等)と新たに発見された古墳や保護措置が必要な古墳の発掘調査を実施した。

また古墳の価値や魅力について県民の理解を深めるため、情報発信や発掘体験等の保護啓発活動を行ってきた。

今年度は事業の終期にあたり、これまで発掘調査を実施した古墳の整理作業や報告書作成等を行った。また古墳の基礎的調査については、未指定古墳16基の悉皆調査と既調査分の追加調査を行ったほか、これまでの情報を整理(データベース化)した結果、5,015基の古墳が県内に所在していたことが確認できた。

【宮崎県内の古墳数】

指定などの状況	総数	内訳											
		前方後円墳	円墳	方墳	横穴墓	地下式横穴墓	周溝墓	土坑墓	木棺墓	箱式石棺墓	板石棺石棺墓	土器棺墓	その他・不明
国特別・国指定	967	126	732	7	101	1							
指定地内で新たに確認(国)	85		2		5	74	2	2					
県指定 (a)+(b)	1,177	56	613	1	429	59			14			7	
現指定分 (a)	941	44	490	1	341	54			7			4	
指定解除分 (b)	236	12	123	0	87	4			7			3	
指定地内で新たに確認(県)	120		23	0	64	31		1	1				
市町村指定	17		3	0	3	11							
指定地内で新たに確認(市町村)	1							1					
未指定	466	20	226	1	163	32	6	9		8	1		
陸墓参考地	4	2	2										
記録保存など	2,182	4	157	5	495	1,205	14	116	18	70	23	12	
各 計	5,019	208	1756	14	1,259	1,472	22	128	19	93	24	19	
総 計 率	5,015	208	1756	14	1,257	1,472	22	128	19	93	24	19	

※県指定解除数から、解除後の未指定墳(円墳1基・横穴墓2基)、再指定墳(県指定:円墳1基→市町1基に変更)を減じた実数

【悉皆調査一覧】

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
西都市	石野田古墳（未指定）	1	日高広人
宮崎市	佐土原村古墳（未指定）、那珂村古墳（未指定）、広瀬村古墳（未指定）	13	黒木俊彦
国富町	木脇村古墳（未指定）	2	谷口至

（5）保存処理

普及資料課では、出土した金属製品や木製品について保存処理を行っている。本年度は7遺跡の木器3点、鉄器130点の処理を行った。

鉄器及び木器保存処理実施の遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
高樋遺跡、橘通東1丁目遺跡、笹ヶ崎遺跡 青木遺跡、山崎上ノ原第2遺跡、小松尾遺跡	鉄鏃、鉄滓など	土落とし、仮接合まで実施
塚原遺跡	農具ほか	トレハロース含浸法にて処理

（6）収蔵整理

①収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和元年度は、登録作業により118箱の圧縮となった。また、329箱を本館に移送し、西都市へ164箱譲与したため、年度末における収蔵量はコンテナ7,794箱となった。

②収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和元年度は、コンテナ466箱を搬入した。また、西都市への譲与分143箱との集計で、コンテナ15,307箱の収蔵量となった。

③登録作業

分館における令和元年度の実績は12遺跡、コンテナ214箱である。登録累計267遺跡、コンテナ7,014箱となった。本館における同年度の実績は6遺跡、コンテナ137箱であり、登録累計105遺跡、コンテナ3,612箱となった。よって、令和元年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、372遺跡、コンテナ10,626箱である。

④図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和元年度は2,294冊の受け入れがあり、合計収蔵数は81,879冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

2 教育普及活動

令和元年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業として平成30年度から令和2年度までの3カ年行う移動展示会「土器と石器がやってきた！埋文セレクション」を主要事業として実施した。埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」は第3日曜日開催で年5回行い、「遺跡発掘速報会」も9月に行った。11月は「施設公開」を文化財保護強調週間中の2日に分館で行った。発掘調査の成果を公開する分館の常設展示では、埋文講座との関連展示など、テーマ展示を年間3回実施し、常設展示の更新につとめた。令和元年度の方館入館者は8,468名であった。



(1) 移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』事業（文化庁補助事業）

埋蔵文化財センターの業務紹介と時代ごとの解説や遺物の展示、セレクション講座や関連イベントの実施、「宮崎県の考古遺跡ガイドブッカー-児湯・県西編-」の作成・配布など、埋蔵文化財の保護を啓発するため県内の4会場で開催した。

① 名称：移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』

② 主催：宮崎県埋蔵文化財センター

③ 共催：都農町教育委員会 延岡市・延岡市立図書館

日南市・日南市教育委員会 新富町・新富町教育委員会

④ 会場・会期：都農町中央公民館 6月23日（日）

延岡市立図書館 7月30日（火）～8月25日（日）

日南市生涯学習センターまなびピア 10月1日（火）～10月15日（火）

新富町総合交流センターきらり 11月19日（火）～12月15日（日）

⑤ 観覧者数

都農会場：20名 延岡会場：45,252名 日南会場：3,900名 新富会場：5,803名

総数：54,975名

⑥ 関連行事：

各会場で体験講座（石器レプリカづくり、土器文様拓本体験、土器パズル）、講演会、展示資料解説等を行った。

(ア) 都農会場 令和2年6月23日（日） 参加者20名

(イ) 延岡会場 令和2年8月4日（日） 参加者55名

(ウ) 日南会場 令和2年10月6日（日） 参加者23名

(エ) 新富会場 令和2年11月24日（日） 参加者81名



延岡会場の展示



日南会場での展示（孤塚古墳）



新富会場での体験講座

(2) 埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」

近年、発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座として、年6回（5、6、7、1、2、3月の第3日曜日）、午後1時30分から午後3時まで分館研修室で講演会を計画（3月は新型コロナウイルス感染症対策のため中止）し、関連する遺物も展示して解説を行った。また、参加者を増やす取り組みとして早期の広報活動や、報告遺跡所在地周辺の学校・団体等への参加依頼やチラシ配布、アンケートによる評価の考察、初心者にもわかりやすい考古学資料の作成等に取り組み、5回の講座に延べ119名の参加者があった。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 R1. 5. 19	「横市川をのぞむ弥生の暮らし」 平田遺跡（都市部）	宮崎県埋蔵文化財センター 橋本英俊	27名
第2回 R1. 6. 16	「古墳群をのぞむ集落」 青木遺跡（高鍋町）	宮崎県埋蔵文化財センター 和田理啓	29名
第3回 R1. 7. 21	「弥生時代 山の民の暮らし」 平底第2遺跡（都農町）	川南町立川南小学校 徳原宏樹氏	24名
第4回 R2. 1. 19	「山裾に広がる縄文集落」 線坂遺跡（都市部）	川南町立山本小学校 甲斐尚和氏	14名
第5回 R2. 2. 16	「塚原台地に生きた人々 ～旧石器時代から弥生時代まで～」 塚原遺跡（国富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 後藤清隆	25名
第6回 R2. 3. 15	「歩いてわかった宮崎の古墳 みやざきの古墳保護・活用事業」	宮崎県埋蔵文化財センター 日高広人 宮崎県埋蔵文化財センター 黒木俊彦 宮崎県教育委員会文化財課 高橋浩子氏	中止

(3) 埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。本年度は、文化財保護強調週間の11月2日（土）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において終日開催した。

【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

開催日	開催場所	内 容	参加者
R 1. 11. 2	埋蔵文化財センター分館	土器水洗体験、土器復元体験、土器拓本しおり体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、巨大土器と写真撮影、土器パズル等	114名



施設公開（発掘疑似体験）



施設公開（土器水洗体験）




施設公開（ドングリつぶし体験）

（4）遺跡発掘成果展 2019・遺跡発掘速報会

埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、県北の遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展 2019 を、県立図書館 2 階特別展示室において開催した。また、平成 30 年度に県内で埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の成果について調査担当者が報告する遺跡発掘速報会を、県立図書館 2 階視聴覚室において行い、関連する遺物も展示した。

【遺跡発掘成果展 2019】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
R 1. 8. 31 } R 1. 9. 23	県立図書館 特別展示室	依石第 1・第 2 遺跡、尾立第 2 遺跡、尾花 A 遺跡、高鍋城三ノ丸跡、下耳切第 3 遺跡、野首第 1 遺跡、竹淵 C 遺跡、  関原地区遺跡、東畦原第 1 遺跡、宮ノ東遺跡、塚原遺跡、妙見遺跡、山ノ口原遺跡、荒泊遺跡	1,207 名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
R 1. 9. 1	県立図書館 視聴覚室	松下遺跡、大浦遺跡、小迫遺跡、坪谷城跡	30 名

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年4回行った。一部は埋蔵文化財講座や遺跡発掘速報展などの事業との連携を図って構成した。

開催時期	開催場所	展示テーマ	展示遺跡
H31. 4. 26～R 2. 3. 13	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財講座関連展示①	平田遺跡、青木遺跡、内野々遺跡、舟川第2遺跡
R 1. 7. 1～R 2. 3. 31	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財講座関連展示②	平底第2遺跡
R 1. 10. 26～R 2. 3. 31	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財講座関連展示③	嫁坂遺跡、下那珂遺跡
R 2. 3. 30～R 2. 5. 1	埋蔵文化財センター分館	県内の古墳調査の成果	百塚原古墳群

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も県高速道対策局関連のイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名称	場所	内容	参加者
1	R2. 1. 25～26	第8回みやざき産業祭	フローランテ宮崎	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展及び遺物展示・解説、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」「宮崎県の考古遺跡ガイドブック」などの配布、土器パズル	300名
2	R2. 2. 15	道づくりを考える宮崎中央女性の会総会	高原町総合保健福祉センター	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展、高原町周辺の遺跡出土の遺物展示、遺物の解説、土器パズル	160名

(7) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて、生涯学習団体や学校を対象とした出張講座を実施している。地域の歴史や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。

	開催日	学校名・機関名	対象	内容	参加者
1	H31. 4. 18	高崎史友会	一般	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 高崎町の遺跡と遺物	28名

	開催日	学校名・機関名	対 象	内 容	参加者
2	R 1. 5. 10	川南町立通山小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 縄文時代から古墳時代までの人々の暮らし	34名
3	R 1. 5. 15	西米良村立村所小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 古墳時代の人々の生活	10名
4	R 1. 5. 17	木城町立木城小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの見学 ② 縄文時代から弥生時代の暮らし	53名
5	R 1. 9. 27	新富町立新田小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 縄文時代から古墳時代までの人々の暮らし	43名
6	R 1. 11. 21	多賀地区自治公民館青葉友会	一般	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 川南町の遺跡と遺物	14名
7	R 1. 12. 7	広瀬西小校区地域づくり協議会	一般・小学生	① 埋蔵文化財センターの見学 ② 体験講座	26名

(8) 現地説明会・調査報告会など

例年は発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく、遺跡の現地説明会や発掘調査が終了した遺跡について、その成果を紹介するための報告会などを開催しているが、本年度は調査の緊急性が高い遺跡が多く、また新型コロナウイルス感染症の影響もあり行えなかった。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	本年度は 該当なし	—	—	—	—

【調査報告会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	本年度は 該当なし	—	—	—	—

(9) 見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

	実施日	場 所	団体名	内 容	人 数
1	H31. 4. 18	埋蔵文化財センター分館	高崎史友会	展示見学・研修	28名
2	H31. 4. 28	埋蔵文化財センター分館	表千家	研修	20名
3	R 1. 5. 18	埋蔵文化財センター分館	南九州大学博物館資料論実習	展示見学・研修	10名
4	R 1. 5. 24	埋蔵文化財センター分館	えびの市立上江小中学校 4～6年生	展示見学	55名
5	R 1. 5. 26	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	8名
6	R 1. 6. 7	埋蔵文化財センター分館	都農町立都農東小学校 3年生	展示見学	19名
7	R 1. 6. 8	埋蔵文化財センター分館	宮崎考古学会	研修	48名
8	R 1. 6. 19	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立穂中学校	展示見学	32名
9	R 1. 6. 26	埋蔵文化財センター分館	佐土原幼稚園	展示見学	49名
10	R 1. 7. 28	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
11	R 1. 8. 26	埋蔵文化財センター分館	県総合博物館（博物館実習）	展示見学・研修	10名
12	R 1. 9. 1	埋蔵文化財センター分館	クラブツーリズム	研修	14名
13	R 1. 9. 20	埋蔵文化財センター分館	高原町立狭野小学校 1～6年生	展示見学	45名
14	R 1. 9. 27	埋蔵文化財センター分館	いざみ幼稚園	展示見学	70名
15	R 1. 10. 5	埋蔵文化財センター分館	西都原考古博物館	展示見学	7名
16	R 1. 10. 13	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	7名
17	R 1. 10. 18	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立池内小学校	展示見学	51名
18	R 1. 10. 20	埋蔵文化財センター分館	三川内神楽保存会	研修	18名
19	R 1. 11. 10	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学	展示見学・研修	18名
20	R 1. 11. 16	埋蔵文化財センター分館	南九州大学	展示見学・研修	10名
21	R 1. 11. 21	埋蔵文化財センター分館	多賀地区自治公民館	展示見学・研修	14名
22	R 1. 11. 23	埋蔵文化財センター分館	ピースフルみらい	展示見学	9名
23	R 1. 12. 22	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	8名
24	R 2. 1. 19	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
25	R 2. 1. 19	埋蔵文化財センター分館	県総合博物館	研修	3名
26	R 2. 2. 15	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の間覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、令和元年度は館内利用19件、館外貸出15件、掲載許可5件であった。

【館内利用】

	利用日	遺跡名・利用資料名	利用目的
1	R 1. 5. 12	分蔵遺跡、平底第2遺跡、塚坂遺跡 [縄文時代晩期土器]	資料調査
2	H31. 4. 23, 24, 26 R 1. 5. 10, 16	陣ノ内遺跡 [弥生土器、土師器、遺構図面、遺構写真]	資料調査
3	R 1. 5. 24	塚原遺跡 [縄文土器]	資料調査
4	R 1. 6. 8	塚原遺跡 [縄文土器]	資料調査
5	R 1. 6. 8～6. 9	陣ノ内遺跡、塚原遺跡C地区、木脇遺跡、西唯原第2遺跡、寺崎遺跡、国分寺跡 [高師小僧、縄文土器、土師器、瓦]	資料調査
6	R 1. 6. 23	阿蘇原上遺跡、菅原洞穴、黒仁田遺跡 [縄文土器、石器]	資料調査
7	R 1. 7. 4	小峰焼 [陶磁器]	資料調査
8	R1. 7. 5, 8. 15～8. 16, 9. 2 ～9. 3, 10. 3～10. 4	内野々遺跡、平畑遺跡 [縄文土器]	資料調査
9	R 1. 7. 12	高鍋城三ノ丸跡 [陶磁器、木製品]	資料調査
10	R 1. 7. 18～7. 19	山田遺跡 [石器]	資料調査
11	R 1. 9. 26～9. 27	山田遺跡 [石器]、中ノ迫遺跡 [石器]	資料調査
12	R 1. 10. 28	下那珂遺跡、熊野原遺跡、前原北遺跡、陣ノ内遺跡、山ノ田遺跡、湯平田遺跡[土器]	資料調査
13	R 1. 11. 25～11. 26	広木野遺跡、陣ノ内遺跡、尾花A遺跡、上野原遺跡、多宝寺遺跡、竹ノ下遺跡[土器]	資料調査
14	R 1. 11. 28	右葛ヶ迫遺跡、下耳切第3遺跡、生駒遺跡 [縄文土器]	資料調査
15	R 1. 12. 18	八幡第2遺跡、諸友遺跡、平峰遺跡（3次）、向原中尾第2遺跡、尾花A遺跡、宮ノ前第2遺跡、塩見城跡	資料調査
16	R 2. 1. 21～1. 22	塚原遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、国光原遺跡	資料調査
17	R 2. 1. 22	妙見遺跡、白ヶ野遺跡、塚原遺跡	資料調査
18	R 2. 1. 27	宮ノ東遺跡、曾井第2遺跡、次郎左衛門遺跡、塩見城跡、飯肥城下町遺跡、岡遺跡（9次）、野首遺跡、笹ヶ崎遺跡、高樋遺跡、橋通東1丁目遺跡、平田遺跡	資料調査
19	R 2. 2. 27	東唯原第3遺跡、山田遺跡、前ノ田村上第2遺跡	資料調査

【館外貸出】

	期 間	貸出資料名	数量	利用目的	貸出機関名
1	H31. 4. 1 ? R 2. 3. 31	野添遺跡 [ササゲ属種子炭化物・栗種子炭化物]	30	文化交流展示「海の道、アジアの路」(平常展) において展示	九州国立博物館
2	H31. 4. 12 ? R 1. 6. 29	向原第1遺跡、板平遺跡(4次調査)、梅北針谷遺跡、平峰遺跡(1・2次)、山崎上ノ原第2遺跡、大窪第1遺跡、山之後遺跡 [台石、転用羽口、熱変形?高坏、軽石、羽口、高坏転用羽口、専用羽口?鉄滓、鉄付着土器?、台石(金床石)、被熱土器、椀形鍛冶滓、鉄塊系遺物、鉄滓付着土器片、瓦	56	平成31年度企画展Ⅰ「炎が生み出すもの～古代宮崎の鍛冶と鉄～」に出品するため	西都原考古博物館
3	H31. 4. 22～ H31. 4. 24	堂地東遺跡 [凹線文壺型土器]、学習キット [旧石器～剥片尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器]	4	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
4	R 1. 5. 6～ R 1. 5. 8	学習キット [旧石器]	75	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
5	R 1. 5. 20～ R 1. 5. 22	学習キット [縄文]	100	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
6	R 1. 5. 27～ R 1. 5. 31	第6学年の授業で使用	228	第6学年の授業で使用	宮崎市立国富小学校
7	R 1. 6. 3～ R 1. 6. 5	学習キット [弥生]	43	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
8	R 1. 6. 4～ R 1. 9. 27	塚原遺跡 [壺形埴輪]	1	平成31年度特別展「埴輪のある風景～日本遺産「南国宮崎の古墳景観」と埴輪～」に出品するため	西都原考古博物館
9	R 1. 6. 17～ R 1. 6. 19	学習キット [古墳]	21	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
10	R 1. 7. 8～ R 1. 7. 12	学習キット [旧石器・縄文・弥生]	218	第6学年の授業で使用	宮崎市立宮崎西中学校

	期 間	貸出資料名	数量	利用目的	貸出機関名
11	R 1. 7. 26～ R 1. 8. 9	学習キット「縄文・弥生・古墳」、土器片、石鐘	278	夏クラブ～夏休みわくわく子ども教室で使用	高鍋町教育委員会
12	R 1. 8. 26～ R 1. 12. 24	塩見城跡「土製聖人像」、前ノ田村上第1遺跡「ガラス玉」	2	大分県立埋蔵文化財センター企画展展示のため	大分県立埋蔵文化財センター
13	R 1. 9. 3～ R 1. 12. 17	塩見城跡「陶磁器」、堂地東遺跡「陶磁器」、八幡遺跡「陶磁器」、本城原遺跡「陶磁器」、笹ヶ崎遺跡「陶磁器」、本城跡「陶磁器」、野首第1遺跡「陶磁器」	31	2019年度国際交流展『台湾 宜蘭 洪武蘭遺跡～海路の交わるところ～』に出展するため	西都原考古博物館
14	R 1. 12. 6～ R 2. 1. 10	烏ノ子遺跡「木製品」、榑山郡元遺跡「木製品」	2	コレクションギャラリー展「文化財を守る伝える」に出展するため	西都原考古博物館
15	R 2. 1. 7～ R 2. 3. 27	余り田遺跡「須恵器、青磁椀」、山崎上ノ原第2遺跡「土師器坏」、曾井第2遺跡「陶磁器」、銀座第1遺跡「陶磁器」、塩見城跡「青磁碗、漆椀」、野首第1遺跡「陶磁器」、高鍋城三ノ丸跡「漆椀」	10	企画展Ⅱ「漆黒の輝き 赤の祈り ～ウルシの考古学～」に出展するため	宮崎県立西都原考古博物館

【刊行物等掲載（写真等資料提供）】

	申請日	資料名	掲載刊行物等	依頼者
1	H31. 4. 23	〔写真〕平峰遺跡「28号壑穴建物跡完掘状況」「30号壑穴建物跡完掘状況」	平成31年度企画展「取りからさめた王さま」において展示	都城市教育委員会
2	R 1. 7. 9	〔映像〕高鍋城三ノ丸跡出土陶磁器、木製品、下駄	宮崎ケーブルテレビ「宮崎の城址」第1回放送作品「舞鶴城」内にて放送	株式会社ユニカム
3	R 1. 7. 10	〔写真〕塩見城跡「土製聖人像」、前ノ田村上第1遺跡「ガラス玉」	企画展「宗廟とキリスト教」展示図録に掲載	大分県立埋蔵文化財センター
4	R 1. 8. 2	〔写真〕塩見城跡「土製聖人像」	潜伏キリシタン図譜プロジェクト実行委員会刊行「潜伏キリシタン図譜」に掲載	潜伏キリシタン図譜プロジェクト実行委員会
5	R 1. 12. 23	〔写真〕牧内第1遺跡「ナイフ形石器、接合資料」	高鍋町広報誌内の埋蔵文化財に関するコラムで使用	高鍋町教育委員会

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会などに埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

派遣期日	依頼者	内容	派遣職員
R 1. 5.10-15	西都市教育委員会	日向国府跡遺構確認調査に伴う地中レーダー探査	東憲章・大竹進太郎 古川誠・吉行真人・ 谷口至
R 1. 5.19	大野城心のふるさと館	福岡県大野城市大野城心のふるさと館における講演対応	東憲章
R 1. 5.29～30	延岡市教育委員会	延岡城西の丸跡の地中レーダー探査	東憲章・古川誠
R 1. 8.13	霧島市教育委員会	鹿児島県霧島市春日堀遺跡及び安良遺跡の整理作業指導	今塩屋毅行
R 1. 9.11	宮崎市教育委員会	下北方遺跡群調査に伴う地中レーダー探査	東憲章
R 1.10. 1	西都原考古博物館	令和元年度国際交流展開連事業に関する解説対応	東憲章
R 1.10.19	宮崎市教育委員会	生目の杜遊古館10周年記念講演会パネルディスカッション参加	東憲章
R 1.11.15	志布志市教育委員会	鹿児島県志布志市上苑A遺跡で出土した古墳時代土師器に関する調査指導	今塩屋毅行
R 1.11.26	都城市教育委員会	県指定高城町古墳第2号の地中レーダー探査	東憲章
R 1.12. 3	宮崎県中学校教育研究会理科部会	第46回宮崎県中学校教育研究会理科部会における講演対応	赤崎広志
R 1.12.14～15	宮崎県高等学校教育研究会理科部会	令和元年度九州高等学校生徒理科研究発表大会における審査委員対応	赤崎広志・松田清孝
R 2. 3. 5～6	えびの市教育委員会	えびの市の市内地下式横穴墓群重要遺跡確認調査に伴う地中レーダー探査	東憲章
R 2. 3.11～18	えびの市教育委員会	えびの市の白鳥地区畑かん事業に伴う松野第一遺跡発掘調査指導	東憲章・今塩屋毅行・ 吉行真人

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

実施日	場 所	講 師	内 容	参加者数
R 2. 1.24	埋蔵文化財センター本館	柴畑光博氏（都城市教育委員会文化財課課長）	「土器からみえるもの～縄文時代を中心に～」	33名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

発行年・月	広報出版物
R 1. 6	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第23号 平成30(2018)年度
R 1. 6	移動展示会『土器と石器がやってきた!埋文セレクション!』関係 宮崎県の考古遺跡ガイドブック児湯・県西編
R 2. 3	令和2年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
R 2. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひびか」22号

(14) ホームページ

本年度は都農町、延岡市、日南市、新富町における移動展示会「埋文セレクション」や分館での施設公開、埋蔵文化財講座、本館における整理作業員の募集など各種の広報にホームページを活用した。また、分館におけるテーマ展示の情報や本館における発掘調査の情報も随時掲載するとともに、館内に掲示する写真をホームページに掲載した写真とリンクさせ、広報活動の充実を図った。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会ほか主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

日程	内容	開催地	出席者
R 1. 6. 6～6. 7	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	福井県福井市	山元高光
R 1. 5.24	令和元年度宮崎県博物館等協議会総会・第1回研修会	宮崎県宮崎市	谷口晴子
R 1. 6.11	令和元年度宮崎県地方史研究連絡協議会総会・研修会	宮崎県宮崎市	山田洋一郎
R 1. 7.22～7.23	令和元年度第1回埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	福岡県福岡市	東憲章
R 1. 11.16	令和元年度宮崎県地方史研究連絡協議会秋季研究発表会 中間大会	宮崎県串間市	山田洋一郎
R 1. 11.21～11.22	国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	長崎県松浦市	二宮満夫

日 程	内 容	開催地	出席者
R 2. 2. 4～2. 7	埋蔵文化財担当職員等講習会	愛媛県松山市	和田理啓
R 2. 2. 4～2. 7	令和元年度第2回埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	沖縄県那覇市	東憲章
R 2. 2. 7	令和元年度宮崎県博物館等協議会第2回研修会	宮崎県宮崎市	松田清孝

(2) 共同研究への参加

所外の研究者や機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

日 程	内 容	参加者
本年度は該当者なし	—	—

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

日 程	内 容	参加者
H31. 4. 18～4. 19	安全衛生者推進講習	大竹進太郎・吉行真人・古川誠・谷口至
R 1. 6. 24～6. 26	第一種衛生管理者講習	赤崎広志
R 1. 5. 10, 13	救急救命講義（心肺蘇生法・AED操作法・応急手当）	総務課・調査課・普及資料課職員
R 1. 8. 20～8. 21	有機溶剤作業主任者講習	加藤真理子
R 1. 6. 27	熱中症予防指導員・管理者研修	大竹進太郎・吉行真人・古川誠・谷口至

4 中浦遺跡の発掘調査

所在地：えびの市大字浦字新邑下1127-4

調査面積：100㎡

調査期間：令和元年8月26日～令和元年9月6日

調査原因：県道京町小林線（京町工区）道路改良工事

調査体制：宮崎県埋蔵文化財センター

調査課調査第二担当 加藤真理子（主）

同 竹田 享志

同 古川 誠

調査課調査第一担当 大竹 進太郎

同 吉行 真人

空中写真撮影：（有）スカイサーベイ九州

自然科学分析：（株）古環境研究センター



図1 中浦遺跡位置図 (S-1/25,000)
(国土地理院発行2万5千分1地図使用)

【調査概要】

中浦遺跡は、えびの市の西部に位置し、現況の標高230m前後の段丘面に立地する。段丘下との比高差は約7.9mとなる。調査地は段丘の縁に位置しており、調査地のすぐ西側はゆるやかに下がっていく。

本遺跡の層序は、Ⅰ層表土、Ⅱ層客土、Ⅲ層灰黄褐色土層、Ⅳ層シラス二次堆積層となる。地表より約15cm～20cm掘削するとシラス層となり、遺物包含層は見られなかった。Ⅲ層は調査区の西側に一部見られ、南側壁面の大部分はⅡ層の次にⅣ層となる（図2）。

表土掘削後、調査区西側に南北に横切る幅約5m、長さ約4m弱の黒褐色土が溝状に広がっているのを確認した。溝状の広がりには調査区南側壁面、西側壁面の一部に見られ、調査区北側は造成によって削平されているが、南北方向に調査区外へ続くものと考えられる（図3）。埋土の確認は、調査区南側壁面及び調査区北側にベルトを設定し行った。南側壁面、北側ベルトともに、上部は粘性のある黒褐色土が約50cm～60cm堆積しており、底部に近づくるとシラス層と混じり合う状況であった（図4）。また、粗粒砂を多く含む層の堆積があり、底部付近の側面にラミナが認められたため、水が流れていた可能性がある。さらに、南側壁面の溝状の底部が検出面から約1m弱であるのに対し、北側ベルトで確認した溝状の底部は約1m20cmにあり、北側に向かって落ちていることがわかった。

この溝状の広がり、平面形態が不整形であり、溝壁面の西側から北側にかけて、自然に落ちていく様相が見られた。また、溝状の両側下部が不整形な形状であり、流水による浸食と考えられたため、当初遺構として掘削を行ったが、人為的な掘り込みではなく自然流路と判断した。しかし、土層の堆積状況から、常時水流があったとは考えにくく、何らかの理由で一時的に水量が増加した際に流路が形成されたと考えられる。

出土遺物は、今回の調査でほぼ出土していないため、確認調査時に流路より出土した土器を掲載する（図5）。小片のため詳細な時期は不明だが、土師器の甕である。頸部から胸部にかけて残存しており、内外面にススが付着している。内面にハケメが一部残るが、内外ともに摩耗しているため、調整は不明瞭である。

流路の埋土を使用し、放射性炭素年代測定 (AMS) 及び植物珪酸体分析を行った。試料の採取箇所は図4に示している。測定結果は表1、2のとおりである。

以上の結果より、中浦遺跡の当時の環境は、草原の中に自然流路が開いており、古代に埋没するまで流路は形成されていたことが想定される。出土した遺物は埋没する過程の中で周辺より流れ込んだ可能性が考えられる。

表1 自然科学分析測定結果 (放射性炭素年代測定)

試料No	測定No (PED)	$\delta^{13}C$ (‰)	14C年代: 年BP (暦年校正用)	暦年代 (較正年代): cal-1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
No.1	39220	-26.22 ± 0.17	1305 ± 20	AD 666-695 (43.6%)	AD 662-720 (67.5%)
			(1305 ± 19)	AD 703-707 (3.3%)	AD 741-767 (27.9%)
				AD 746-764 (21.4%)	
No.2	39221	-26.84 ± 0.22	1780 ± 20	AD 228-258 (37.8%)	AD 143-156 (1.6%)
			(1780 ± 19)	AD 285-289 (2.6%)	AD 167-195 (4.8%)
				AD 295-322 (27.8%)	AD 210-265 (46.4%)
No.3	39222	-25.33 ± 0.18	3040 ± 20	BC 1576-1346 (25.3%)	BC 1391-1337 (33.9%)
			(3041 ± 21)	BC 1304-1261 (42.9%)	BC 1321-1224 (61.5%)

BP: Before Present (Present) 401900 年B.C., cal: calibrated, BC: 紀元前, AD: 西暦

表2 自然科学分析測定結果 (植物珪酸体分析)

検出密度 (単位: ×100 個/g)		遺物遺構 (流路)			
分類群	地点・試料	1	2	3	4
イネ科	Gramineae				
ヨシ属	Phragmites	5	6	11	11
キビ族型	Panicum type	5	11	5	6
ススキ属型	Miscanthus type	82	28	16	23
ウシタマ草属A	Andropogoneae A type	26	33	27	17
タケ草科	Bambusoideae				
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	67	50	75	68
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	650	535	504	367
チャキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	15	11	16	6
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	5	11	5	6
未分類等	Others	113	106	129	85
その他のイネ科	Others				
表皮毛起源	Husk hair origin	5	6	11	6
棒状珪酸体	Rod-shaped	62	89	43	40
未分類等	Others	67	72	54	90
樹木起源	Arboreal				
その他	Others			5	6
(海綿骨針)	Sponge spicules	5	6		6
植物珪酸体総数	Total	1103	959	900	729
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m ² · cm) : 試料の収比重を1.0と仮定して算出					
ヨシ属	Phragmites	0.33	0.35	0.68	0.71
ススキ属型	Miscanthus type	1.02	0.35	0.20	0.28
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.78	0.58	0.87	0.79
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	3.12	2.57	2.42	1.76
チャキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	0.12	0.08	0.12	0.04
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.02	0.03	0.02	0.02
タケ草科の比率 (%)					
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	19	18	25	30
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	77	79	71	68
チャキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	3	3	4	2
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0	1	0	1
メダケ率	Medake ratio	97	96	96	98

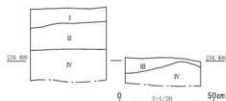


図2 基本層序 (S-1/20)
 I層 10193/7 黒褐色土 表土 褐色のブロック上、砂利が散らばる
 II層 10191/7 灰黄褐色土 表土 粘性有り、しまり有り、1~3cm程度の礫を含む、10193/7のブロック土を含む
 III層 10191/7 灰黄褐色土 砂利が少なく、しまりはあまりない、シラス二次堆積物と混じり合う
 IV層 10171/4 浅黄褐色土 砂利が少なく、しまりはあまりない、シラス二次堆積物

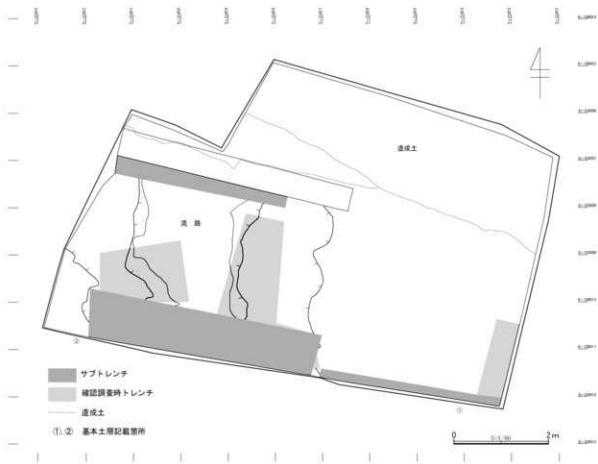
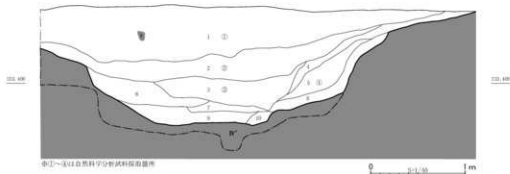


図3 調査区平面図 (S-1/80)



- | | | | |
|----|----------|---------|--|
| 1 | 10YR2/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、しまり有り、こぶし大の礫を含む |
| 2 | 10YR2/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、砂子細0-4、褐色の粒を含む、細0-4の白色粒を含む、しまり有り |
| 3 | 7.5YR3/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、砂子細0-4、褐色の粒を含む、目撃より明るい色をしており、黄褐色を含む、しまり有り |
| 4 | 7.5YR3/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、褐色粒を含む、7.5YR3/2黄褐色土のブロック土を含む、しまり有り |
| 5 | 10YR3/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、砂子細0-4、しまり有り、10YR2/2に近い黄褐色ブロック土を多く含む |
| 6 | 10YR3/1 | 黄褐色土 | 粘性有り、黄褐色を多く含む、10YR2/2に近い黄褐色ブロック土を多く含む、しまり有り、西側に向かうにつれて黄褐色、ブロック土がなくなる |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黄褐色土 | 粘性有り、10YR3/1に近い黄褐色を多く含む、粘砂を多く含む |
| 8 | 10YR2/1 | 黄褐色土 | 粘性強く、しまり有り、砂子細0-4、10YR2/2に近い黄褐色のブロック土を含む、粘砂を含む |
| 9 | 10YR2/1 | 黄褐色土 | しまり有り、粘砂粒を含む、1cm程度の褐色粒を含む |
| 10 | 10YR3/2 | 黄褐色土 | 粘性がV層より強い、しまり有り、砂子細0-4、10YR2/2に近い黄褐色ブロック土を多く含む |
| 11 | 10YR6/1 | に近い黄褐色土 | シルス土系層積物、砂子が細かく、しまりはあまりない、底層付近では10YR6/1黄褐色の、砂子が細かくしまりのない土が露出 |

図4 流路北側壁面土層断面図 (S-1/40)



- | | | |
|---------|---------------------------------|------|
| 品 | 種 | 備 |
| 瓦 | 瓦 | 形状不明 |
| 漆塗 (cm) | 瓦2 | |
| 字色・調整 | 西面：ナブ、西面：ナブ・ハナ | |
| 色 | 西面：10YR2/6明黄褐色、西面：10YR2/2に近い黄褐色 | |
| 粘土の特性 | 1~5cmの層を2枚含む、褐色粒をわずかに含む | |
| 備考 | ×××封倉、内外面塗料 | |

図5 出土遺物実測図 (S-1/4)



(1) 中浦道路遠景 (西から) (丸が中浦道路)



(2) 調査区全景



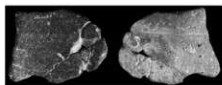
(3) 調査区南側壁面 土層堆積状況 (北から)



(4) 流路検出状況 (南から)



(5) 流路 土層堆積状況 (南から)



(6) 出土土器 (左: 内面 右: 外面)

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成8年3月29日
教育委員会規則第5号

改正

平成12年1月20日教育委員会規則第1号
平成12年3月31日教育委員会規則第8号
平成12年12月18日教育委員会規則第21号
平成18年3月30日教育委員会規則第9号
平成19年3月30日教育委員会規則第3号
平成20年3月31日教育委員会規則第6号
平成26年3月27日教育委員会規則第2号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査研究に關すること。
- (2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
- (3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
- (5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
- (6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第3条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第4条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設及び設備の管理に関すること。
- (6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

- (1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
- (4) 前3号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
- (5) 第1号から第3号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

- (1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副所長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要に応じ、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区分	休館日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日
	2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。)
	4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。)
	2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
	4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するとき、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。

(4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。

(5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書(別記様式第2号)を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成8年4月1日から施行する。
(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)
- 2 宮崎県総合博物館管理運営規則(昭和46年宮崎県教育委員会規則第4号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成12年1月20日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成12年1月20日から施行する。

附 則(平成12年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成12年12月18日教育委員会規則第21号抄)

(施行期日)

1 この規則は、平成13年1月6日から施行する。

附 則(平成18年3月30日教育委員会規則第9号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日教育委員会規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月27日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

別記

様式第1号

第10条関係)

様式第2号

(第11条関係)

別記

様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

別記

様式第2号（第11条関係）

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

案 内 図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171 (代表・総務課)

0985-36-1172 (調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 佐土原駅から車で 10 分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で 8 分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮 2 丁目 4-4

TEL 0985-21-1600 (普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前 9 時～午後 5 時

(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)

特別整理期間

入館料 無料

E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 宮崎神宮駅から徒歩で 10 分

綾・国富・平和が丘行き宮崎交通バス

博物館前バス停から徒歩で 2 分





宮崎県埋蔵文化財センター

〒 8 8 0 - 0 2 1 2 宮崎県佐土原町下那珂 4019 番地
T E L 0985-36-1171・1172 F A X 0985-72-0660
E - mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp